

マットレス圧縮梱包

足利 フルハウス機械導入

圧縮機とマットレス（中）と圧縮梱包されたマットレス（右） 足利市寺岡町



れたマットレスをプレスし、吸引機で空気を抜くと、厚さが3分の1以下に圧縮できる。これを丸めると、容積は約5分の1になり、運送業者に扱ってもらえるという。運送料金も大幅に抑えられる。

同社は月産約2千枚のマットレスを製造する。その約8割は通信販売で全国から注文が寄せられる。岡部幸雅工場長は「商品と配送費が別の場合が多く、お客さまの負担を大きく軽減できる。家具や寝具の販売店でも在庫として置きやすくなる」と話す。

販売店が常備しやすくなることで、色やキルトパターン（縫い目）の種類を増やすなどして、販路拡大を図る。（伊藤一之）

配送コスト抑え 顧客負担を軽減

ベッド、マットレス製造販売のフルハウス（足利市寺岡町、三井厳社長）は、マットレスを圧縮し、配送しやすいよう丸めて梱包する外国製機械を導入した。同社によると、こうした機械の導入は国内の業界初という。物流コストの大幅な削減などを目指す。

同社のマットレスはスプリングと緩衝材が入った横97センチ、長さ195センチ、厚さ20センチ。ただ、大きくかさ

ばるため、人手不足などを理由に運送を請け負う業者が減っており、業者がいっても運送料金が高騰している。機械ではビニール袋に入